

同期会便り 5期(1954年3月卒)のページによろこそ!!!

* 同期会・同級会など同期の仲間との集まり、地元での活躍等の情報をお寄せください。

5期の皆さんからの寄稿をお待ちしています。

* 寄稿に当たっては、卒業期(或いは卒業年月)、氏名(含む旧姓)を必ずご記入ください。

寄稿の宛先は：市川二中同総会事務局 住所：〒272-0825 市川市須和田2-34-1

E-mail：2chu@kde.biglobe.ne.jp

* 5期のホームページもあります。トップページの「皆さんの頁」から入って、ご覧ください。

* 会報1号(1998年10月)から

☆五期生同期会について

5期 A組 三村武教

中学校生活を想う時、兵舎跡の校舎、ぬかるんだ校庭、運動会での仮装行列など走馬燈のようになり浮かんでくる。早いもので卒業してから44年あまりが走り去り、何時の間にか還暦を迎える歳になってしまった。この間、同期会を開催したのは卒業32年後の昭和61年12月と昨年(平成9年)5月の二回、開催回数が少ない事を反省しているが、幹事諸氏のお蔭で2回とも盛会裡に開催された。

五期の卒業生は5クラス、276名。現在71%にあたる197名(内死亡14名)の消息が判っている。卒年次のわりには消息判明率は良好なのではないかと想っている。名簿つくりには各クラスの幹事諸氏が大変苦勞された成果である。

出席者は第1回94名(うち恩師9名)、第2回75名(恩師5名)。いずれも市川のサンプラザ35で開催。

恩師や級友のスピーチ、楽器

以下の写真は平成9年(1997年)5月17日
第2回同期会の時の組別参加者の写真

A組



演奏等の余興、ゴルフや孫のこ
などの情報交換、クラス別記
念写真撮影、校歌斉唱。閉会后
クラス毎に分かれての二次会な
ど大いに旧交を温めた。
次回は平成12年5月20日。
中学校の同期会は色々な人生を
歩んできた人達と接する場であ
り、楽しみの一つである。

B組



C組



D組



E組



＊ 会報2号(1999年10月)から



真清水会 (5期)



☆五期の仲間達・

真清水会のこと

5期A組 本吉健也

光陰矢の如く、54年に卒業しておよそ半世紀近くの歳月が流れたが、五期の仲間が集まれば心はいつも青春時代となる。

仲間の三村君が会報の復刊第一号で紹介したように、86年に第一回の同期会が開催されたが、その当時の幹事がこの集まりの母体となったようだ。私も幹事会に関西から出張を利用して毎回出席したものである。そして私が88年に東京転勤になつて二十七年振りに戻つてきた時には、仲間達が歓迎会を開いてくれた。その中には二中の気象部の仲間(市川二中五十年史)の七二頁をご参照)や卒業後の山仲間も入り、男女十数名の集まりである。

年に一、二回程度の飲み会と時には泊りがけのゴルフを行う。お互いに卒業以来は異なつた道を歩んできただけに、話をするだけでも実に楽しい。男達は会えばすぐに悪戯鬼の頃に話に花を咲かす。以来、今日に至るまでこの集まりは続いている。

また「五十年史」賛助金の話を山田さんから相談を受けた時も、この仲間達を中心に幹事会を結成して第二回の五期同期会を97年春に行い、募金活動を大いにアピールしたものである。

時は流れて、私も仲間のしんがりである今年三月に還暦で定年を迎え、新しい事業を始めるために再び関西へカムバックすることとなった。十数人の仲間達は、桜咲く頃、私の新しい門出を祝う歓送会を開いた。(写真)

その会合で、この集まりの名幹事役の繁田君からの提案により五期の有志の集まりを「真清水会」と名づけられた。

この名前は、勿論、わが二中の校歌の一節「真間の真名井の真清水」に由来している。こんな湧き出る清らかな水をイメージした名前は、私達にこれからの生きる力を与えてくれるようだ。



＊会報3号(2000年3月)から



5期同期会 (12.5.27)

★第五期生同期会便り

5期 三村武教

五月二十七日(土)、好天の中、三年振りの第五期生同期会(第三回)を市川市の山崎厚生年金基金会館で開催した。出席者は、恩師5名、同期生五十三名、計五十八名、前回に較べ十人余り出席者が少なかったことはやや残念であったが、なかなかの盛会であった。

一月の第一回幹事会からスタートし、七月七日に名簿や写真を会員に郵送する手配と反省会を兼ねた最終幹事会迄、総勢二十二名の同期会幹事の皆さんの協力の賜であった。この場を借りて感謝申し上げたい。



ヤマザキ厚生年金基金会館に先生方5名を含め、58名が勢ぞろい

三年振りに再会した人が多かったが、昭和二十九年の卒業以来四十六年振りに参加した人も数人いた。一昨年還暦を迎えたこともあって、自営業の人はともかく、サラリーマンは元々の職場で仕事を続けている人は稀となった。退職して悠々自適な第二の人生を歩んでいる人、或いは関係会社へ転職した人、新しい会社に就職した人、或いは一念発起自ら事業を興した人など人生模様も様々である。

今回も五人の恩師(寺島利雄先生、鈴木元先生、千葉正子先生、中村樗先生、佐藤千寿子先生)にご出席いただき、近況をお話しいただいたが、皆さんお元気で若い。今でも、仕事をバリバリこなしておられる方もいて、敬服の至りである。生徒との歳の差は十ないし二十才、顔かたちを見ただけでは、生徒と先生の区別は付けがたい。我々も何時までも元気でありたいとしみじみ感じた。



丘巻、だったのは、アトラクショ
ンの真剣による演武であった。同
期生の小出知勇八段と新影流宗家
豊島一虎先生との真剣を使った剣
法の形、普段なかなか見ることが
出来ない演武だけに、全員しーん
として見入っていた。特に女性の
受けた感銘は一人のようであつた。
ため息さえ漏れていた。お二
人の好意に感謝したい。

パーティーは午後二時に始ま
り、五時にお開きとなつたが、昔
話、趣味の話、孫のこと、仕事の
こと、などなど話は尽きない。繁
田君の見事な司会振りもあつて、
和やかな楽しい会であつた。最後
に記念写真を撮り、二中の校歌
「須和田が丘」を青木利雄君の指
揮のもと元気に斉唱し、三年後の
五月十七日の再会を約して一次会
を無事終了した。

散会后、場所を八幡に移し、富
川尚明君の店で二次会を開催した
が、ほぼ全員出席の盛会だった。
食べ放題、飲み放題、歌い放題、
特に皆さんの歌の巧さには感心し
た。さすが、長い人生を生きてき
ただけあつて、歌い込んでいる人
が多かつた。話しまくり、歌いま
くつた二時間であつたが、あつと
いう間に過ぎてしまった。同期生
全員での二次会は初めての試みで
あつたが、賑わいも一入で、大変
良かった。富川君の好意で、格安
の会費で楽しい時間を過ごすこと
が出来たことを申し添えたい。

*会報4号(2001年3月)から

☆ クラス会便り

5期A組 三村武教

実に久しぶりのクラス会だつた。前回は1985年(昭和60年)に開催、16年振りである。同期会は3年毎に開催するようになったが、クラス会は幹事の怠慢のため、久しぶりの開催となつてしまった。誠に申し訳ない。

4月21日(土)、市川市の山崎厚生年金基金会館に21人が集合した。女性9名、男性12名、皆大変元気だった。遠来の友もいた。中路徐子さんは遙かドイツのミュンヘンから前日帰り、時差ぼけをおして参加してくれたし、寺沢(鶴岡)義子さんも名古屋から駆けつけてくれた。嬉しい極みである。

さらに今回は一人新しい仲間を迎えることができた。太田徳也君、市川二中を卒業こそしなかつたが、2年生まで我々と一緒に学んだ愉快的仲間である。キャノンのインクジェットプリンターの開発者の一人で、キャノンを退職後は技術コンサルタントとして活躍している。本吉君から皆に紹介された。満場の拍手のもと我々の一員となつた。これで亡くなつた人も入れて3年A組は総勢57名(男32、女25)となつた。うち故人が4名、宛先不明者が9名いるが、44名の所在が分かっている。今回は約半数の人が参加してくれた。

恩師の江口和夫先生は、病氣療養中のため、誠に残念であつたがお見えになれなかつた。脳溢血で

倒れられてから約20年、一進一退のご様子で、一日も早い病状の回復を祈つてやまない。クラス会のことでは先日お宅に電話し、奥様とお話ししたが大変明るいお声で応対してくださり、ほつとすると同時に中学校時代お宅にお邪魔し、お汁粉をご馳走になつたときのことを思い出した。昭和28年当時のことで、なかなかお汁粉も食べられなかつた時代であつた。

3時から始まつたクラス会は、昔の思い出話、新しく始めた仕事や孫の世話、不況の中でいかに頑張っているかなどの近況報告、出席できなかった人の情報、趣味の話など話は尽きず、大変盛り上がり、あつという間に二時間半が過ぎてしまつた。最後に、青木君の指揮のもと二中の校歌を歌い、集合写真を撮つて一次会を散会した。

次いで、同じく山崎厚生年金基金会館の地下のカラオケのある部屋に移つて二次会を行った。マイクを離さないほどの歌い手はいなかつたような気がするが、女性にもかなり元手をかけていそうな人もおり、話に、歌に大変にぎやかだつた。

次回は、来年の5月か6月に開催する予定である。今回、特に女性はお孫さんの世話のため、参加できなかった人が多かつた。次回は、一日だけでも孫の世話をさぼつて参加してもらえたらと願っている。

第5期3年A組の皆さん、クラス会について要望その他ありましたら、三村まで何なりとおっしゃつてください。

また、同窓会の総会が毎年六月に開催されます。5期生の総会出席が少なく寂しく感じています。来年度の総会には、是非参加してください。



*会報5号(2002年10月)から

五期生便り

懇親会とゴルフの会

5期A組 三村 武教

六月九日(日)同窓会終了後、市川駅南口のスナック「夢のつづき」で五期生の懇親会を開催した。日曜日の午後六時からと言うこともあって、参加者は十九名と少なかったが、久しぶりの再会に話が咲き、熱唱も加わって楽しい一時を過ごすことができた。

また、この日、五期生ゴルフの会「真清水ゴルフ会」が発足した。同期会に関するアンケートを実施した結果、ゴルフの会参加希望者が約二十名ほど集まった。繁田佳彦君、小竹尚志君が常任幹事に決まり、この秋、第1回コンペを実施することとなった。この会報が届く頃は次回に向け練習に励んでいる人もいろいろであろう。

我々の同期は明年六十五歳を迎える。リタイヤ組がだんだん増えてくる。会社との縁が無くなってくると、仲間との集まりが生き甲斐として残ってくる。この「真清水ゴルフ会」が順調に発展するとともに、他の同好会が発足することも願っている。

*会報6号 (2003年10月) から



「真清水ゴルフ会」

5期A組 小竹 尚志

「人生に不可欠なものが三つ、それは食事と睡眠とゴルフ」と言う古人の名言がある。

「真清水ゴルフ会」の各人がこの名言どおりに考えているかは別として、五期の集まり「真清水会」にゴルフ同好会が発足したのが平成十四年七月、それまでは、ゴルフ好きが集まってコンペをやっていました。三村武教さんが同期会でアンケートをとり、同好の士、二十数名で、この会がスタートしたわけです。

第一回は、平成十四年九月二十五日、千葉の名門「泉カントリークラブ」で開催、私と一緒に幹事をされている繁田佳彦さんが優勝(十名参加・ダブルペリア方式)。第二回は、埼玉の名門「清澄ゴルフ倶楽部」で、小竹が優勝(九名参加・同方式)。わが二中の校歌の一節「真間の真名井の真清水」



に由来して「真清水ゴルフ会」と名づけられた清らかな名が同好の士に生きる力を与えてくれていてと確信しています。賞品もお金のかからない持ち寄り品でやっています。平均年齢六十五歳弱という青年・淑女の集まりです。家族・友人参加も含めて、この魅力つきない奥の深さを持つゴルフをプレーし、談笑し、健康増進に役立てること。そのことに生涯かわわっていただける幸せを感じているところで。第三回は今年の十一月七日、これからも年二回は、開催したいと考えています。(掲載の写真は同好の士・島尻勝臣さんの提供によるもの)

*会報7号(2004年10月)から

懐かしい顔顔顔・同期会

5期A組 三村武教

昨年11月8日、恒例の山崎厚生年金基金会館の会場に、3年振りに懐かしい顔が集まった。千葉(高木)正子先生、佐藤(在原)千寿子先生、中村櫻先生の3先生にもご出席頂き、総勢46名が元気なにかやかな顔をそろえた。

今回は太田徳也君にキャノン時代彼が携わった「インクジェットプリンター」開発にまつわる話をして貰ったが、わかりやすく大変好評であった。

飲み食いの方は相変わらず旺盛である。今回は「量より質」を心がけ失敗したので、今回は「質より量」に方針変更、そのためか、前回より一層盛り上ったような気がした。

盛り上がりは、さらにカラオケ会場へ、得意のものを披露して散会した。

次回は平成18年、次次会は平成20年(70歳)の6月の予定、同期の皆さん予定しておいてください。祈ご健勝!



「真清水ゴルフ会」の

活動について

5期A組 小竹 尚志

「ゴルフでは、良い人柄と良いスイングしか役に立たない」(ジャック・ニクラウス)

という名言がある。五期有志の良き人柄の人間の集い「真清水ゴルフ会」も今回で第四回を数える(三月二十六日開催)。「金乃台カントリークラブ」はビギナーも上級者も変化に富んだプレーを楽しめるフェアウェイのど真中に大木のあふるホールが多く、戦略性豊かな茨城の名コース。今回は出場者十四名。平均年齢六十五歳を超える若者達である。

午前八時四十五分、インスタート。それぞれパターの練習を終え、元気一杯。ゴルフというスポーツの持つ魔力に魅せられ、大自然の



中で、良き友と談笑し、健康増進に役立てることが出来る。これがこの会の目的です。

競技方法は、ダブルペリア方式。女性会員も三名参加し、楽しくも、真剣な戦いが始まる。午前を終わって、接戦だ。

昼食、この時間は、友との語り、これがまた楽しい時間である。体調のこと、子供のこと、孫のこと、と話しはつきない。十八ホールが終了。疲れた身体を風呂で癒す。これもまた気持ちが良い。語らいと風呂、これもゴルフの魅力の一つかも知れない。今回はハンディ13・2をもらった幹事・小竹が優勝。二位蒲野雅夫さん。三位中川康彦さん。女性のベストスコアは、三村淑子さんでした。

次回は、今年の十月二十日に開催します。

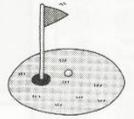


***会報8号
(2005年4月)から**



「真清水ゴルフ会」

5期A組 小竹尚志



「重症と軽症の差はあるがゴルフをやる者みんなビョーキ」（チ・ロドリゲス）という名言がある。そんなゴルキチが集まる「真清水ゴルフ会」は五期有志を中心の集まり。今回で5回を数える（平成16年11月24日開催）。「千葉国際カントリークラブ」は豊かな自然を生かしたコース。桜コースは赤松と杉にセパレートされている。今回は10月20日に予定されたが、台風の為に中止せざるを得なく、この日に変更。当日は快晴に恵まれ一安心。平均年齢66歳を超える若者（？）達である。出場者9名、午前9時18分桜アウト

をスタート。誰もがゴルフの魔力に魅せられ、自然とゴルフコースの素晴らしさにわが身を置くことの大好きな仲間達である。健康増進、良き友との楽しい語らい。この会の目的もそんなところにあります。

女性会員も2名参加し、楽しい戦いが始まる。午前を終わり15打差の中に9名が再び接戦である。昼食、これも、いろいろな話題を語り合う楽しいひとときだ。身体の事、子供、孫の事など話は尽きない。18ホールが終了。優勝は腰の痛みをコンパクトなパンチ・シヨットで見事にのりきった三村武教さん。2位は幹事の小竹、3位は石橋雅史さん。女性のベストスコアは酒巻美枝子さん。次回は桜の便りも聞かれる3月23日に開催します。

***会報9号(2006年3月)から**

5期生有志

市川市内散策と懇親会
5期A組 本吉 健也

関西に移住して45年になるが、幼児期から小学校、中学校時代を過ごした市川は、私のこころの古里である。所用で上京する機会を見つけては、なるべく幼馴染や学生時代の友達と会い、クラス会や同窓会に出席することを心がけてきた。とりわけ須和田ヶ丘の仲間とは、飲み会やゴルフで懇親を深めてきた。その幹事役である三村武教君の計らいで、平成17年10月22日（土）、市川市内の思い出の地を巡る散策会に参加した。

3年A組に限らず同期有志の参加により、15名が午後1時にJR市川駅に集合した。生憎の空模様で時折、傘が必要であったが、ボランティアの案内人の石田道男さんの懇切な説明で、頂いた資料を片手におよそ3時間半の散策をスタートした。まずは市川大門を北上して、平安、鎌倉時代の歌人に詠まれた「真間の継橋」、万葉集で有名な「手児奈霊堂」、漂浪の詩人・北原白秋が滞在した「亀井院」、

涙石とされた桜で有名な「真間山・弘法寺」、「芳澤ガーデンギャラリー」を経て、須和田ヶ丘に聳え立つ「わが市川二中」を訪問した。校庭では後輩達が元気にスポーツを楽しんでいた。その時、半世紀前にタイムスリップして、参加者全員が自然に「須和田ヶ丘に聳え立つ、わが学び舎のはらからは」を口ずさんでいた。一面の原っぱだった丘は、鬱蒼とした森の須和田公園

となり、その片隅には戦前、須和田に住んでいた中国の父・郭沫若の詩碑が立っている。近くの旧宅を復元した「郭沫若記念館」では、日中国交正常化に尽くした同氏の遺徳を偲んだ。さらに鴨が遊ぶ「じゅん菜池」から歴史に名高い「里見公園」でゴールインし、帰路はバスでJR市川駅へ。

懇親会では、午前中にお見舞いした病魔と闘っている（3年間、同じクラスで犬ころのように一緒に遊んだ）仲間の状況を一同へ説明した。この後、心地よい汗をかけたのでビールで乾杯し、台湾屋台料理に舌鼓を打ちながら、和やかに団欒して楽しい時間を過ごした（この文章は、この3週間後に亡くなられた、故・村松義夫君へ捧げます。）



「真清水ゴルフ会」の

活動について

5期A組 小竹 尚志

「肩から力が抜けて、ようやくゴルフも人生も一人前(グレナ・コレット)」という名言がある。5期有志の集まりが「真清水ゴルフ会」。第7回を数える。(17年10月24日開催) 今回の「白鳳カントリー倶楽部」は、ゆるやかな丘陵に広がり、池が戦略的な要素を盛り上げているコース。参加者は平均年齢67歳を超える人生の猛者(?)揃い。午前10時6分、アウトスタート、出場者12名全員がゴルフ好きで、コースの持つ自然の素晴らしさも解っている。健康増進、古き良き友と語り合う楽しさ、この会の存在理由もそんなところに有る。女性会員2名も参加し、熱い戦いが始まる。

午前を終わり、13打差の中に6名、接戦である。昼食を摂りながらの語らい、これもまた楽しい時間である。ゴルフショットの事、身体の事、子供、孫の事、話題は尽きない。このコースはグリーンが難しい、3パットは当たり前前、4パットもあるという難しさだ、参加者全員が苦労している。池もなかなかの難物である。18ホールが終了。優勝は三村武教さん、2位は幹事の小竹、3位も幹事の繁田佳彦さん、女性のベストスコアは酒巻美枝子さん。

【なお、この年の3月23日に行つた当会の優勝者は、蒲野雅夫さん2位は小竹、3位は三村武教さんでした。】次回は平成18年4月14日に開催します。

*会報10号(2007年3月)から



5期生同期会

5期 村瀬 賢之助

去る平成18年9月10日、市川グランドホテルに於いて第5回か6回?目の同期会を開催致しました。47、48名の参加者と恩師4名の方達で実施しました。当初は昔懐かしい顔と名前が一致せずにおりました。話が進む内に「そうだそうだ」と思い出が甦り、楽しい楽しいひと時を過ごす事が出来ました。開催に当り4名の先生方にご挨拶を頂きましたが中村先生、佐藤先生、鈴木先生、千葉先生と皆さんが我々よりも元気におられ、大変嬉しい思いを強く感じました。話は異なりますが、今の小中学校の間で「いじめ」の問題がテレビや新聞で毎日のように話題になっていますが我々の時代、どうだったのか考えますと喧嘩やいたずらは日常茶飯事でしたがこれが今の陰湿ないじめとは異なり問題になったことはなかったのではないかと思います。明るく元気な子供?と見られていたのか・・・私自身も大いに参加していた様な気がします。ですがいたずらをして先生に頭ではと思う程痛かった事もあつ



たり、皆で俺もやられたと大笑いしたりで約2時間ほどの会もアツという間に終了、最後に校歌を歌い終了となりました。次回は「古希」を迎える2年後として又皆さんと楽しく集まれることを楽しみに閉会としました。

真清水ゴルフ会

5期 蒲野 雅夫

ゴルフを始めたのは29歳になった冬だった。当時勤めていた会社の上司に勧められ、3ヶ月後のゴルフコンペを目標に毎日素振りをすることを命じられた。3ヶ月間1日も欠かさず毎日素振りをした。3ヶ月後、一度もボールを打つ事もなくコンペに参加した。コンペ当日、ティーの上にボールを乗せて打つ事を初めて知った。スチールのクラブをアイアンと云うことも教わった。今から39年も前のことだった。

ピークの頃は年に50回、60回コースに行つたが昨年は11回だった。真清水会、市川二中、第5期生のゴルフ会。こういう会は音頭をとる人がいないと中々始まらないもの、参加できて幸せ、発起人に感謝。2006年11月2日、霞台カントリークラブ(武石君がメンバー)、真清水会に参加した。参加者13名。当日いつもの如くかなり早くコースに到着、初めてのクラブハウスの中をうろろろしている内に懐か





しい顔に出会う。昔のまま古くな
った顔を見るのがなんとも嬉しく、
楽しい瞬間だ。友の顔を見て我が
歳を改めて思い知る。天気良し、
あつと云う間に楽しい時は過ぎて
しまう。成績、優勝・三村、2位：
：蒲野、3位：島尻、ブービー：田
口、ベスグロ：小竹(86)、ルールは
新ペリアなので運が半分。残り少
なくなってきた人生、同期の皆さ
んもつと参加しようよ！ 次回は
2007年4月、あまり老けた顔
にならずに現れてくれよな、御同
輩！

***会報 11号(2008年3月)から**

**「真清水ゴルフ会」
幹事からの報告
5期 小竹 尚志**

「肩から力が抜けて、ようやくゴ
ルフも人生も一人前(女性版)ピ
ー・ジョーンズと呼ばれた、グレ
ナ・コレット」の名言がある。

こんな名言を実行すべく、今回
の「真清水ゴルフ会」は10月24日に、
「おかだいらゴルフリンクス」で
開催、出場者14名、多くは今年、
古希を迎える強者達です。天気は
快晴、グリーンの難しさに悩みな
がらも接戦の末、優勝は小竹、2
位は太田徳也さん、3位は三村武
教さん。賞品も14名全員に渡り、
楽しい語らいの後、一日を終えま
した。

これからは8期の方達が、秋は
二中同窓会コンペである「須和田
会」に合流される事に倣い、5期
も、秋の「真清水ゴルフ会」を合
流する事にしました。

「市川二中」の総ての「期」の皆さ
んの「須和田会」へのご参加をお
待ちしています。

ゴルフは、若い方も、年配者も
一緒に楽しむ事が出来る素晴らし
いスポーツです。二中を卒業され
たゴルフ愛好者の皆さんが一堂に
会してゴルフを楽しむ事が出来た
ら素晴らしい「人間交流」の「場」が
出来ると思います。

**5期生「古稀を祝う会」
5期 佐野(石橋)康子**

平成20年11月16日(日)、山崎
製パン企業年金基金会館を会場
に、佐藤千寿子先生、千葉正子
先生、中村樺先生、鈴木元一先
生の恩師4名をお迎え、開催
されました。70歳を祝うメンバ
ーは53名、遠くは北海道旭川、
四国愛媛、愛知県名古屋からの
参加でした。

会は、幹事代表三村武教氏の
挨拶に始まり、恩師
近況、
思い出
を話し
ていた
だきま
した。

生徒で
ある私た
ちと少し
も変わら
ず
お若い先生方
は、私たちにとつて目
標とさせていたいただき
思い出でした。
記念写真、乾杯を進



***会報 12号
(2009年)
から**



めて、いよいよ記念すべき会の
催しとなりました。

春風亭華柳師匠の「落語」、4
期生の黒川正巳さんの「マジッ
ク」、メンバーの廣田綾子さん
の舞「祝儀舞、長寿千年」と豪
華に色を添えていただき、晴れ
の祝宴となりました。

懇親に入ってからには、昭和29
年卒業時の顔となり、笑い声が
絶えませんでした。

当日参加できずにいるメンバ
ーの中には、親の介護、自身の
体調不良、その他諸々の理由は
あると思いますが、1人でも多
くの方々にこの雰囲気の中に入
ってもらいたいと思わずには居
られませんでした。元気でいる
幸せに感謝をし、最後は
須和田が丘に聳え立つ
わが学舎のはらからは…

校歌を声高らかに斉唱、
別れ難い思いを胸に、2年
後の再会を約束して会場を
後にしました。

私たちの心の中
には赤土のこぼ
この丘と兵舎、や
つと建てられた小
さな校舎が何時ま
でも残っています。

***会報 14 号から**



平成22年11月14日、山崎企業年

5期・第7回同期会

5期 阿部 恭子

金会館で第7回・5期同期会が行なわれました。出席者41名。最初に同期会の代表であり現同窓会会長の三村さんから、同期会、同窓会の現状説明を挟んでご挨拶を戴きました。続いて市川さんから同窓会についての報告があり、参加者に賛助金協力の為の箱を回す一場面もありました。

80歳を越された先生方3名をお迎えし、元気なお姿に触れ、弱音を口にしていた一同は大きなパワーを戴いたような気がします。

今回の会は歓談が中心でしたが、沢山の品物の寄付があり、ビンゴゲームで皆に多彩なお土産を渡すことも出来ました。楽しい歓談を惜しみながら、2年後の再会を誓い合い、3時間の会を終えました。



***会報 16 号(2013 年 10 月)から**



5期 - 次回は2年後 - 5期 山田 尚美

平成24年11月18日(日)、山崎製パン企業年金基金会館で開催。

出席者は佐藤(在原)千壽子先生、中村樺先生、千葉(高木)正子先生の恩師3名を含め32名。

先生方それぞれ、絵画に、古代史に、書道・旅行にと精進を続けておられるお話に元気を頂き、歓談で旧交を温め、ビンゴで盛り、次回は2年後・春にとの予告があり、校歌を歌い散会しました。

***会報 18 号(2015 年 3 月)から**

～'14.5.25 山崎製パン企業年金基金会館～
参加者は32名。年々減少、寂しさを感じますが止むを得ないことなのでしょう。

佐藤千寿子、千葉正子、中村樺の3先生が今回も元気な姿を見せてくださいました。

小倉利夫君の黄綬褒章、前田道子さんのご主人の旭日双光章のお目出度い報告もありました。

1次会は久しぶりの再会に話が進んでいましたが、恒例となったビンゴゲームの賞品は総額4万円の商品券と、太田徳也君寄贈の美味しい日本酒で大いに盛り上がりました。

2次会は、カラオケと談笑。計5時間の再会に別れを告げました。

詳しくはホームページをご覧ください。

5期・第9回同期会 5期 三村 武教
(数え喜寿を祝う会)



*会報 19号(2016.3 発行)から



5期・初めての一泊旅行 5月13日(水)~14日(木)の同期会

5期 三村 武教

スパリゾートハワイアンズ



ポリネシアンショー



今回の参加者は16名。それぞれ横浜、東京、西船、松戸から「スパリゾートハワイアンズ」まで無料バスで直行、ほぼ同時の13時頃到着。アロハシャツに着替えて昼食へ。食後、18時の宴会まで温泉にゆっくり浸かったり、プールに入ったり、屋上庭園からの景色を楽しんだり、ショッピングを楽しんだり、それぞれに過ごしました。「ウォーターパーク」では日ごろ鍛えた肉体を誇るがごとく、泳ぎを満喫しました。「露天風呂・江戸情話」「与市」は高い天井と白壁、黒塗りの柱に使い込まれた古木の床を歩いて入ります。江戸時代の街並みと湯屋をモチーフに、江戸情緒を再現した世界最大の露天風呂とのことでした。

夕食は18時から豪勢な食事と、日本酒ソムリエ・太田君の保証付きの高級酒を楽しみました。20時に宴会を切り上げ、フラダンス会場へ。=写真= 2日目はまた「与市」にゆっくり浸かりました。女性陣はしっかりショッピングも楽しんでいました。昼食は「蕎麦どころ・与市」で、美味しいおそばに舌鼓。

この日のショーは13時30分からで、天窗を通して陽光が射し込み、ショーより見易く写真撮影に好適です。観終わると、いよいよ家路へ。

お疲れ様でした、でも楽しかったですね。「近いうちにもう一度、宿泊旅行に行きたい」そんな声も出ていました。また企画しましょう！

*会報20号(2019.3 発行)から

第11回 5期同期会

5期 三村 武教

5月22日、山崎パンの会館で開催。同期生の参加は29名、参加者が少しずつ減る。78歳、寄る年波には勝てないということなのでしょう。今回はドイツから中路さんがはるばる参加してくださいました。

佐藤千壽子先生、中村樺先生、千葉正子先生の三先生、今年も元気いっぱいのお姿を見せてくださいました。先生方のご挨拶の中で、「最近家族に自動車の運転を控えるように言われ、バスや電車での外出。慣れない乗り継ぎで苦勞している」、「よく出かけていた海外旅行に行かなくなり、国内旅行で我慢している」、「いろんな期の教え子の同期会に出席するのがとても楽しみで、必ず出席するようにしている」といったお話をされていました。

恒例となった「同窓会報告と賛助金のお願い」。今回も出席者の皆さんから多額の賛助金をいただき、同窓会に寄付しました。5期は同窓会にとってのドル箱です。

久しぶりの再会に話が弾みます。同級生はいいですね、お互い気が許せて。膝が痛い、腰が痛いなど体調の話、孫の話、中学生時代の思い出話などなど話は尽きませんでした。↗



アトラクションは、恒例のビンゴゲーム。一等5,000円1本、二等3,000円3本など合計3万円の大盤振る舞い。このほか太田君から特別賞として大吟醸の寄付がありました。

3時間があっという間に過ぎました。最後に校歌斉唱、再会を約束して別れを告げました。

＊会報22号(2019.3 発行)から

五期・第12回同期会

三村 武教

傘寿



2018年5月11日(金)市川の山崎パンの会館で、2年振りに第12回同期会・傘寿の会を開催。佐藤千壽子、中村樺、千葉正子の3先生、それに名古屋からはるばる駆け付けた寺澤(旧姓鶴岡)義子さんを加えて26名が参加しました。回を追うごとに参加者が少なくなつてちょっと寂しい感はあるのですが寄る年波、やむを得ないことなのでしょう。しかし集まった皆さんは元気はつらつ、久しぶりの再会を楽しんでいました。

最後は穴倉広江さん、岡田治代さん、太田徳也君の3人の進行のもとビンゴゲーム

で盛り上がりました。ちなみに1等賞の大金を引き当てたのは佐藤千壽子先生でした。

次回は1年後の2019年5月10日(金)・山崎製パン企業年金基金会館の予定です。

＊会報23号(2020.3 発行)から

傘寿を超えて元気はつらつ 5期同期会 三村 武教



1954年に、市川二中を卒業してから65年、2019年3月31日までに全員80歳の傘寿を迎えました。今回が13回目の同期会、恩師御3方と同期生25名の28名が出席、5月10日に山崎製パン企業年金基金会館で開催しました。昨年の同期会比2名増、この歳になつて参加者増、本当に嬉しいですね。

出席してくださつた恩師は昨年同様、佐藤(在任)千壽子先生、中村樺先生、千葉(高木)正子先生、それぞれ94歳、90歳、89歳とご高齢ですが、大変お元気でした。是非ともあやかりたいものです。

午後1時30分、受付開始、同期の仲間が着々と到着、午後2時、藤井康栄君の司会で時間通り開会しました。

三村代表幹事の挨拶の後、まずは「同窓会への賛助金の募金」、同期会開催時には毎回募金を実施しています。同窓会

の運営資金が苦しいということで、今回も賛助を呼びかけました。集まった賛助金は同窓会に寄付しました。五期の皆さん、ご協力本当にありがとうございました。

石原健三君が乾杯の音頭を取つて、宴がスタート、参加者の皆さん、久しぶりの再会を楽しんで盛り上がっていました。

しかし、お酒は飲まなく？ 飲めなく？ なりました。アルコールはビール20本に、焼酎4合だけでした。飲めなくなったというより、飲まなくても済むようになったんでしょう。

午後4時30分、太田徳也君の指揮で二中校歌・須和田が丘を斉唱し、清水久雄君の音頭で中締め、楽しい同期会の幕を閉じました。次回は令和2年5月15日の予定です。

2017年の日本人の平均寿命は男性は「81.1歳」、女性は「87.3歳」、男性は今年平均寿命に達しましたが、女性はあと6年あります。まだまだ元気に頑張りたいですね。今年も同期会でお目にかかりましょう。

2020年、2021年にも同期会を開催する予定でしたが、コロナ禍で断念、大変残念でした。2022年(令和4年)には開催予定です。